

原子力災害による風評被害を含む影響への対策タスクフォース 概要

日 時 令和3年8月20日(金) 15:00~16:00

場 所 合同庁舎4号館12階1208特別会議室

- 【復興庁】 平沢復興大臣、亀岡復興副大臣、横山復興副大臣、
由良統括官、中見参事官
- 【内閣府】 田中 大臣官房 政府広報室長
中 食品安全委員会事務局 次長
- 【消費者庁】 村井 政策立案総括審議官
- 【外務省】 渡邊 経済局審議官
- 【文部科学省】 林 大臣官房政策課長
- 【厚生労働省】 三木 医薬・生活衛生局 食品監視安全課長
- 【農林水産省】 前島 大臣官房危機管理・政策立案総括審議官
倉重 水産庁 次長
- 【経済産業省】 須藤 大臣官房 福島復興推進グループ長
／内閣府 原子力災害対策本部 廃炉・汚染水・処理水対策チーム
事務局長補佐(兼)資源エネルギー庁 廃炉・汚染水・処理水特別
対策監
- 【観光庁】 村田 観光庁 次長
- 【環境省】 田原 大臣官房 環境保健部長
松澤 水・大気環境局長
- 【原子力規制庁】 佐藤 核物質・放射線総括審議官
- 【防衛装備庁】 萬浪 プロジェクト管理部長
- (オブザーバー)【福島県】 鈴木 副知事
- (オブザーバー)【内閣官房】 植松 東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局
企画・推進統括官

事務局より、議事 1 について資料に基づき説明。

続いて、関係各府省庁より議事 2 を、事務局より議事 3 を、資料に基づき説明。

その後、以下のとおり意見交換を行った。

(意見交換の概要)

○横山復興副大臣

ALPS 処理水の処分方針の決定を受けて、今年 5 月からこれまで 5 回開催された実行会議ワーキンググループでは、復興副大臣として出席し、関係自治体、業界団体等から数多くの貴重なご意見を伺いました。

この中で、情報発信や理解醸成に関して多かったのは、丁寧で分かりやすい説明による理解醸成が必要ということ、また、科学的で正確な情報が必要であるということ、買い控えや買いたたきが起らないよう、流通段階に目を配ることが必要だということ、さらには国際機関とも連携しながら、国際社会へ情報発信することが重要、こういったものがございました。

その他の御意見では、やはり処分の安全性と透明性の確保が大前提だという御意見がございました。

また、風評影響を最大限に抑制するためには、生産、加工、流通、消費の各段階での対策を講じることが重要だという御意見が数多くございました。

理解醸成に向けた情報発信等の取組を進めるに当たっても、こうした地元や関係者の声をしっかり受け止めて進めていくことが重要であります。

関係各府省におかれましても、今回取りまとめた施策の実行に当たって、こうしたことを反映して進めていただくよう、お願いしたい。

○亀岡復興副大臣

ALPS 処理水の処分に伴う風評対策を進めるにあたって、地元の福島県などの想いを受け止めながら連携して進めることが非常に重要です。

このため、地元の想いにきめ細かく対応できるよう、復興庁としても、本年度、自治体が自らの創意工夫によって行う風評払拭に向けた取組を支援するため、新たに交付金を創設しました。8 月に第一弾として、11 事業を交付決定したところですが、この制度も活かしつつ、今後更に自治体の取組を支援してまいります。

関係各府省におかれても、それぞれの分野において、風評払拭に向けたきめ細かな市町村のサポートをお願いしたい。

また、中長期的に見れば、子供たちには正しい知識が浸透することが重要です。教育現場での放射線教育はもちろん、関係各府省の取組においても、子供や若年層を意識して進めることが重要であります。

最後に福島県産品の販売の促進に向けては、全ての関係者が取り組む必要がありますので、関係府省におかれましても、PR 等、様々な取組を進めていただくよう、改めてよろしくお願い申し上げます。

○平沢復興大臣

前回のタスクフォースで、私から情報発信、理解の醸成を進めるに当たって四つの施策を検討してほしいということをお願いしたところ。それに基づき、本日は関係府省庁からいろいろと御発表いただき、あわせて、これをまとめたものを施策パッケージとしてとりまとめさせていただきました。関係府省庁の皆さん方の御尽力に心から敬意を表したいと思います。正確で分かりやすい情報発信が不可欠ですので、引き続きよろしくお願ひしたい。

福島に何度も行って思うのは、福島の皆さん方は本当に頑張っておられるということです。これだけ大きな被害を受けたにもかかわらず、必死になって立ち上がろうとして頑張っておられるわけです。地震がありました、津波がありました、そして、原発の被害もありました。もしここで風評被害を受けるようなことがあれば、福島の皆さんには本当に申し訳ないと思っております。風評被害ゼロというわけにはいかないかもしれないけれども、あれだけ頑張っておられる福島の皆さん方を支援するためにも、風評被害は限りなくゼロに近いものにしていかなければなりません。そのため、皆さん方のお力がどうしても必要ですので、引き続き御尽力くださいますよう、心からお願ひしたい。

今回のオリンピックで、福島県の桃が話題になりました。アメリカのソフトボールの監督、オーストラリアのソフトボールの代表監督が記者会見で言われました。福島の桃は大変おいしい、福島は安全な町だ、福島はきれいな町だ、これがどけだけ大きな宣伝効果といいますか、福島にとってはいいものになったか分かりません。自然な形で言ってくれたわけですが、いいことを言ってくれたと拍手を送りたい気持ちになりまして、お礼の手紙も書かせていただいた。

風評対策というのはいろんな形でできるわけですので、ぜひ皆さん方もいろいろと考えていただいて、そして、風評被害が、何度も言いますけれども、ゼロに近いものになりますように、ぜひ皆さん方のお力をよろしくお願ひしたい。

いずれにしましても、福島をはじめ、被災地の皆さんは一生懸命頑張っていますので、それを応援するのは私たちの大きな務めでありまして、ぜひ皆さん方のお力を心からお願ひしたい。

以上